

Rakuyomi

トリプル安(株式、債券、REIT)だった2022年

～あらためて分散投資の効果について考える～

代表的な資産の価格が一様に下落した2022年

2022年は、インフレの高進を背景とする欧米の金融引き締め動きや、世界的な景気後退懸念などを受けて、世界の株式やREITが売られました。また、世界の債券についても、欧米で利上げが続くとみられる環境下で、価格が下落しました。このように、2022年は、代表的な資産である、株式、債券、REITの価格が一様に下落したことから、分散投資の効果が発揮されにくい1年となりました。

2023年は分散投資の効果が発揮される可能性

ただし、過去30年(1993～2022年)を振り返ると、株式、債券、REITのトリプル安は、米中貿易摩擦や米利上げなどにより、投資家心理が悪化した2018年と、2022年の2回しかなく、2022年は、稀有な1年だったと考えられます(下図)。また、2023年に入ってから、米利上げ幅がさらに縮小されたほか、米利上げの最終局面が近づきつつあるとの観測などもあり、市場環境について変化が生じつつあるとみられます。

分散投資ではリスクの低減などが期待される

一般に、分散投資では、異なる値動きをする資産や銘柄を組み合わせることで投資を行なうことにより、リスクの低減のほか、投資効率(リターン/リスク)*の向上なども期待されます。

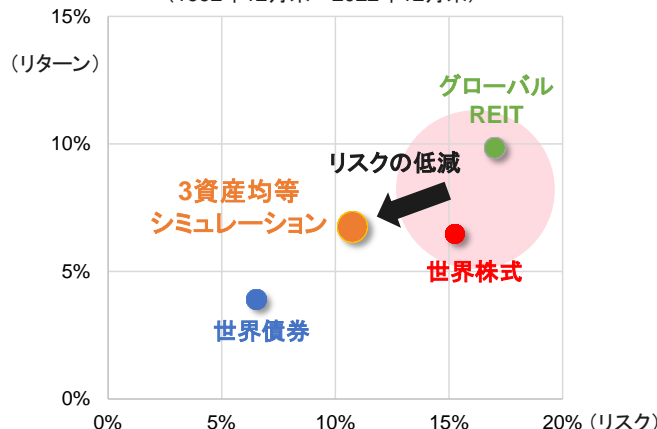
*リスクに見合うリターンかどうかを測る指標で、数値が大きいほど効率良く投資できているとされます。

過去30年のシミュレーションでは、株式、債券、REITの3資産に均等投資した場合、株式やREITへの単一投資に比べて、リスクの低減が確認できます。さらに、投資効率は、各資産への単一投資

を上回る水準となっています(右図)。分散投資は、短期的には効果が発揮されにくいことがあるものの、長期的には安定した資産成長を実現するうえで有効な手段のひとつと考えられます。

分散投資によって期待されるリスクの低減

<各資産と3資産均等シミュレーションのリターンとリスク>
(1992年12月末～2022年12月末)



	世界株式	世界債券	グローバルREIT	3資産均等シミュレーション
リターン	6.5%	3.9%	9.9%	6.8%
リスク	15.3%	6.5%	17.0%	10.7%
投資効率(リターン/リスク)	0.43	0.60	0.58	0.63

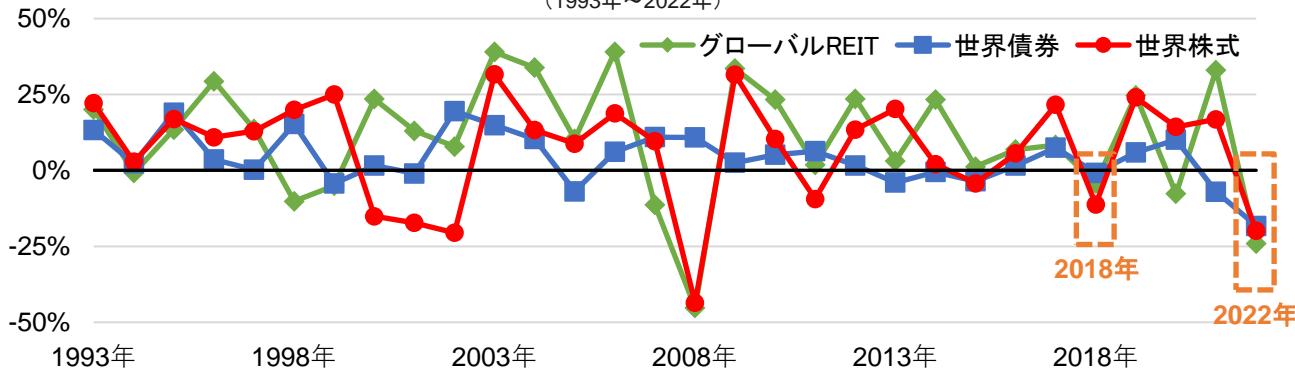
*世界株式: MSCI ACワールド指数、世界債券: FTSE世界国債インデックス、グローバルREIT: S&P先進国REIT指数(いずれも米ドルベース、配当込み)、3資産均等シミュレーション: 上記の3資産に1/3ずつ均等投資した場合のシミュレーション

*リターンは月次騰落率の平均、リスクは月次騰落率の標準偏差をそれぞれ年率換算

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

過去30年で、3資産とも一様に下落したのは2018年と2022年の2回のみ

<各資産の騰落率の推移(米ドルベース)>
(1993年～2022年)



上記で使用した指数は右上と同様

※上記は過去のものおよびシミュレーションであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。